

継続事業 東ティモール

農業用水改善事業

— 地球にも女性にもやさしい点滴灌漑を使って、貧困削減と女性のエンパワメントを目指す —



活動地域: エルメラ県アッサベ郡の4村内12集落
 事業期間: 2020年3月31日～2023年8月31日(3年5か月間)*うち、2020年3月31日～同年10月31日の約7か月間は中断期間
 事業規模: 当年度支出額22,551千円(総事業規模: 約144,000千円)
 主な支援者: 外務省、支援組織、個人

12

グループ

農民グループの数

4,178

人

対象となる12集落内の農民の数

30

人

設備維持管理委員会メンバー数(うち半数は女性)



©Josh Estey/CARE

課題

活動地のエルメラ県アッサベ郡では、多くの人々が零細農業を営んでいますが、農業生産性は低く、生業状況は脆弱なため、貧困度の高い地域となっています。背景には、気候変動に伴う天候不順等、様々な要因がありますが、乾季の水不足も農業を妨げる大きな要因です。雨季の天水に頼った穀物の生産だけではなく、農業を多様化し、年間を通じ作物が収穫できる環境への改善が求められています。そのためには、農業用水設備の整備を進め、乾季の水不足を解決することが重要です。また、膨大な労力を必要とする水汲みと農作物への水やりは女性農民が主に担っています。貯水タンクや点滴灌漑設備などを設置することで、安定的な農作物の収穫が期待でき、さらに水汲みおよび水やりにかかる労働から女性農民を解放することが可能となります。

活動内容

駐在員が着任した2020年11月以降、活動地において、地域住民を対象に事業の概要説明と啓発活動を行うとともに、現地検分を行い、農業用水設備の詳細設計の策定と調達資材の見直しを行いました。また、農民グループのメンバーほか、各集落のコミュニティリーダーや住民の参加のもと、設備の設置場所、共同農地や水の利用に関する条件等について、関係者間の合意形成を図りました。その上で、設備維持管理委員会を起ち上げました。新型コロナウイルス感染拡大に伴う移動制限や洪水被害をうけ、活動の実施スケジュールを変更するなど、当初の計画に縛られることなく、状況に応じて実施形態を変えて活動を進めました。次年度も工夫を凝らし制約のもとでも活動を進めることが求められています。

受益者の声



ベアトリスさん

メンバーの推薦で農民グループのリーダーとなったベアトリスさん(46歳)は、2回のジェンダー研修を通じて、「伝統的に女性はほとんど畑仕事をしませんが、研修で女性も畑を耕すことができると学び、畑仕事に参加するようになりました。男性も子どもの世話をしたり、料理や洗濯をしたりして、男性と女性が助け合うことが大切だと学びました。今後、タイス(伝統的な手織りの布)を織って販売する活動をメンバーと一緒にしたいと思っています」と意欲的に語ってくれました。